室賀
室
室田
向井

向山
岸
禮

畧譜

仁

二百十一冊ノ内

内閣文庫
和書
番號 三六〇八
冊數 二一一
函號 五八
架 一〇一

394

内閣文庫
番號 和 360886
冊數 211(100)
函號 156 17

国立公文書館
National Archives of Japan

閑
874

記録御用所

東照宮市代

家紋

丸の内上之字
三つ巴丸 橘義

伊豫守頼義全孝頼清ら子孫
屋代弟法ら兄弟三男姉宮孫孫

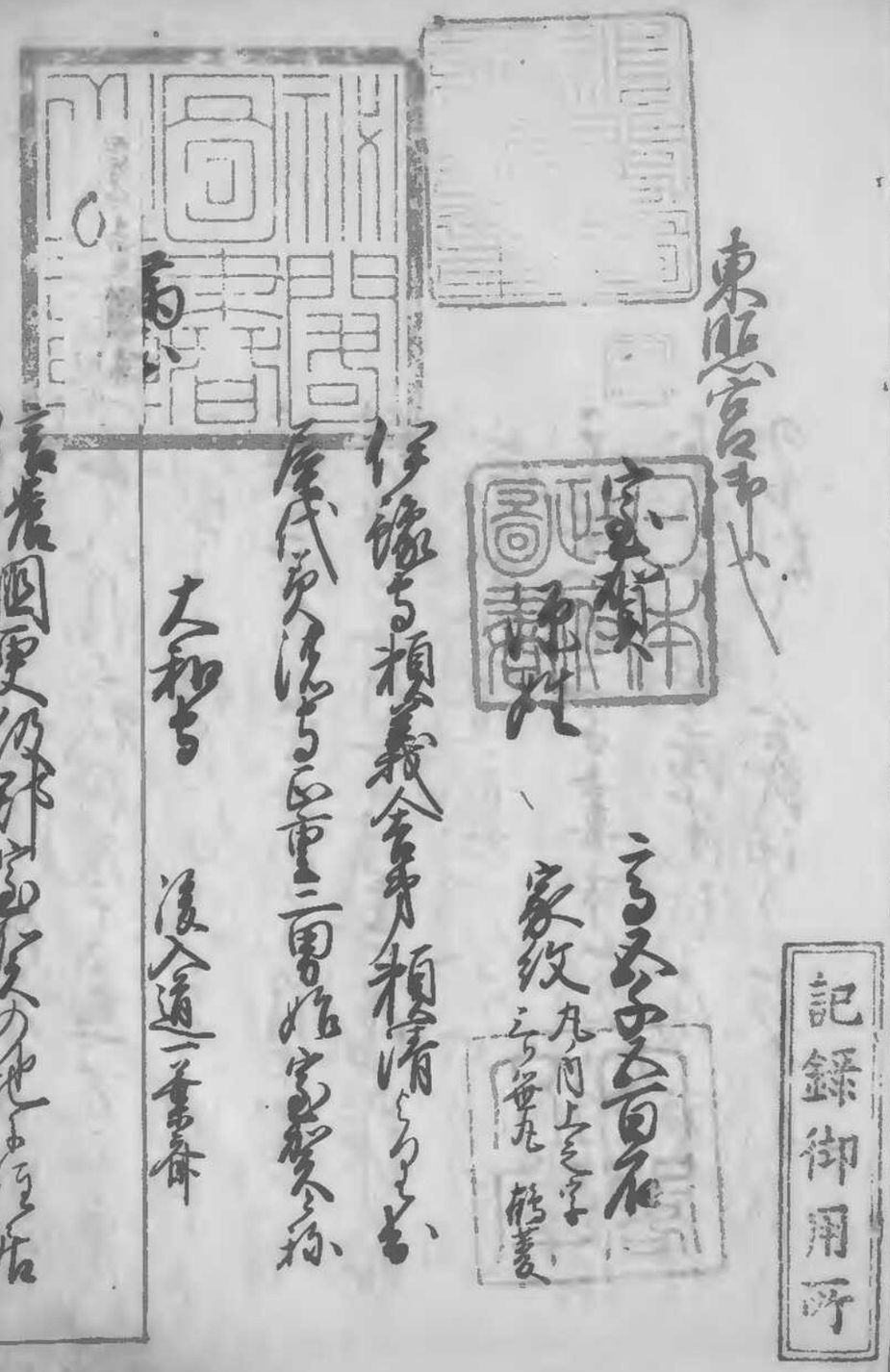
大和守

後入道二重春

信濃國更級郡宮の地の住者

国立公文書館
National Archives of Japan

閲
374



武田信玄の拡張に伴い、酒井・日永・根古
年八月上旬、秋葉神尾を攻め、二百二十四戸
引率し、信長に中津の出法を紀
信玄方の名を挙げ、八月廿四日
財庫を開き、信玄を信長に献ず
宗教の文道に悪し、不合倫を定
二万貫二百二十貫文を信玄に
大小の郷庄園を献ず、三月
の利を合戦に中の利を得る

満山信玄の前後を立て身敵を
しかし遠信身信玄の羅東へ
はみ方行中の別信玄時間
を行者を信長記の後者
正号策の後を別に長篠騎士を
指揮し信玄の上を小を物合
の後と新教軍切に時年武
を行と信頼の感状
常者の書写に甲信強孔の初

[illegible]を
[illegible]を通じ[illegible]天正十年冬
共八日死甲[illegible]秋年[illegible]

長

[illegible]代は帝左帝
日[illegible]紙中[illegible]二国の[illegible]
長[illegible][illegible]死
[illegible]

武

武田勇力[illegible]
紙を[illegible]利を失[illegible]和議を[illegible]
と称し碁を[illegible]侍を[illegible]
[illegible]紙を[illegible]の股を[illegible]
碁盤を[illegible]
[illegible]帝中[illegible]
[illegible]自害[illegible]

腦水

[illegible]代紙中[illegible]

同社領中ニ國衆ニ

宗教法度

浦役

父子家ヲ継天文年中ニ有勝賦ニ
ヲ以テ武田勘解由織信長ノ下知ヲ
受ケ甲信両国ヘ
乗馬ヲ市ニ出スルノ時ハ味方ニ附ク者
甲府ヲ以テ渡ル人ハ一年信列ヲ以
見勝永ヲ以テ上杉京勝ト一戦ノ時

○下書

逆ト敵ノ首百級ヲ打捕ル中國ノ
方式紫ノ門十三年間ノ月日不和 上杉
京勝ヲ攻ル時 勝永
ヲ不信及屋宅ヲ焼ク
敵ヲ追掃ル勝利ヲ得ル
仕ル
宗河ノ宮ヲ永二年二月日
六拾七家ヲ

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

同性紀伊守三國宗

宗賀源氏

源俊

父の家を継ぎ天文十年二月勝頼と
ともに武田家に織田信長の下知を受け
甲斐信濃甲斐南部へ
乗馬を許されるの時四郎方に附く八月者
甲府を攻め諏訪上原城を攻落し
其勝永と共に武田家滅亡の時

逃て敵の首百級を打捕り中國の
方に蒙る同十三年閏八月日不知上杉
景勝と和睦し責られるの時勝永
と共に信長の命を受け雲州の軍事を統
敵と追捕し勝利を得る天正十年
に信濃に出陣し元和二年二月
京師に帰陣し慶長二年二月
六拾七歳にて死す

履

小俣与　初　源七郎

實父大草馬尉勝永二男

寛永六年六月御家人召出家督○

御小姓組○同年七月御小姓組佐守○

同十六年七月御小姓組佐守宿割○

同十七年十二月十八日小十人頭○蒙妻

元年十二月廿二日結城附出家老加秋

合二百石○慶安二年十月廿二日新加

○寛文元年十月十二日加秋千石○

御日見 金百加秋千弐百石○寛文八年十

二月御年寄源七郎正信ゟ千弐百

石之地○延宝七年十二月廿七日老

免被仕○被仕度旨仕領御用也

つゝしみて御役許令下候

○天和元年四月廿一日死七十二歳

牛ヒ宗冬ニ寄ニ
○勅使一貫文の西毎欣

正勝

武田信玄卿

元亀二男也欣

神田殿ヒ殿ヒ。天正七年二月十吉
家綱ヒ八ヒ石神井殿ヒ殿ヒ寄合ヒ同

八年十月
徳松丸ヒ後八ヒ西殿ヒ計ニ寄ヒ。逝
去後寄合ヒ。享保九年十月谷
死ヒ年ヒ歳ヒ年ヒ寄

西殿

小十郎卿

元禄六年十月十二日初ヒ。享
保九年十六月八日死ヒ

八普

正徳元年 河内住人 義輝

享保九年十二月廿七日 [illegible]
[illegible] 石[illegible]
紀[illegible]日十年[illegible]
年[illegible]月[illegible]
中[illegible]
[illegible]
[illegible]元文[illegible]年七月[illegible]

[illegible]二年七月[illegible]
[illegible]定[illegible]年[illegible]月[illegible]
納[illegible]
[illegible]
[illegible]年[illegible]月[illegible]
[illegible]

正馮（モリ）

名庫　初源頼朝

後任武蔵

寛喜二年八月廿八日宣旨

同年十二月廿五日宣旨

十月廿六日清涼殿の四隅に年八月

廿六日百人講を行ひ永元年二月

九月廿六日弘長二年二月廿七日

後任

正繩（ツナ）

初西方

名庫　初源頼朝

永元年十二月廿六日百初見の夫婦

二年二月廿七日宣旨の日年八月

十日弾府加賀の国七年九月十

日大風吹く国年十二月十八日都

元の宣旨の日年二月十日都河

大夫の上に清涼殿殿上人
河の国に年二百五十年より
度々の大夫貴賤ともに庭銀二両
毎年の国に十年二百五十貫文宛
宛

源頼朝

一公美（ヨシ）

寛政六年甲寅初春吉日
有光

大納言殿御下向御人数

歳有院殿御代

宗貞　三千貫百石

源姓　寛政九月上字
九月乃業様

宗貞下総守之長男

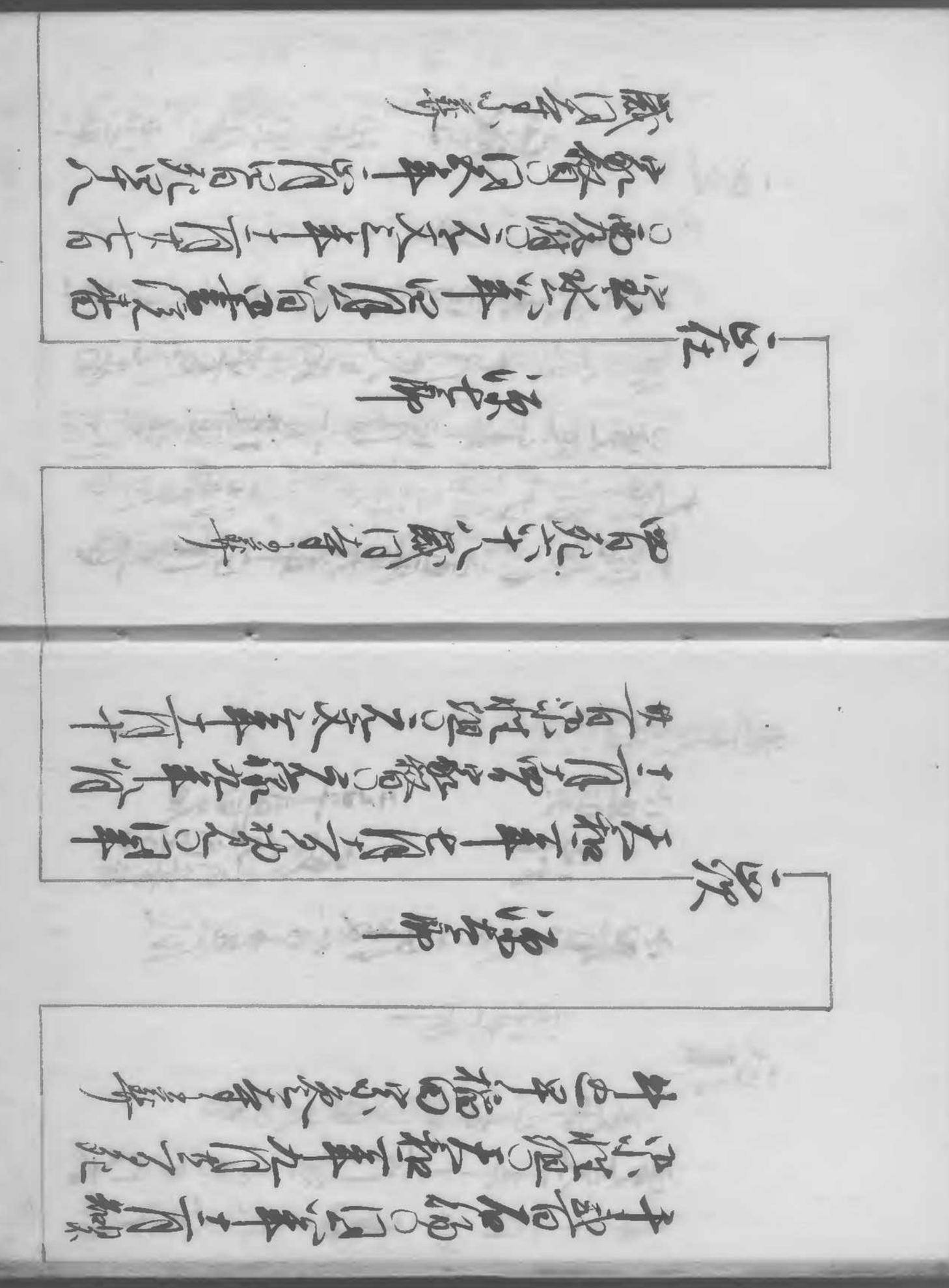
源七郎

正信

実中心動解由惣定四男

寛文二年十二月解書ようの日文

年十二月紛ふ事なく父の和知



国立公文書館
National Archives of Japan

二之

歌うら　初中宮九条源左帝

寛平御時后宮歌合の歌

元文六年閏八月廿六日南殿出書之畢

保元元年十月廿八日南殿出書之畢

○寛延二年閏十月廿一日清涼殿

左帝所大的之流射之海老行

一渡毎終○寛延九年二月十日

寛喜○同年十二月廿八日寛喜

貞応元年閏十月廿五日寛喜

十月廿日清涼殿閏十一月

廿六日

左帝所蒔之語上帝

青章院殿宣旨殿仰之

宣旨殿の仰

○同十二年六月廿六日

時後式○同和元年七月十八日

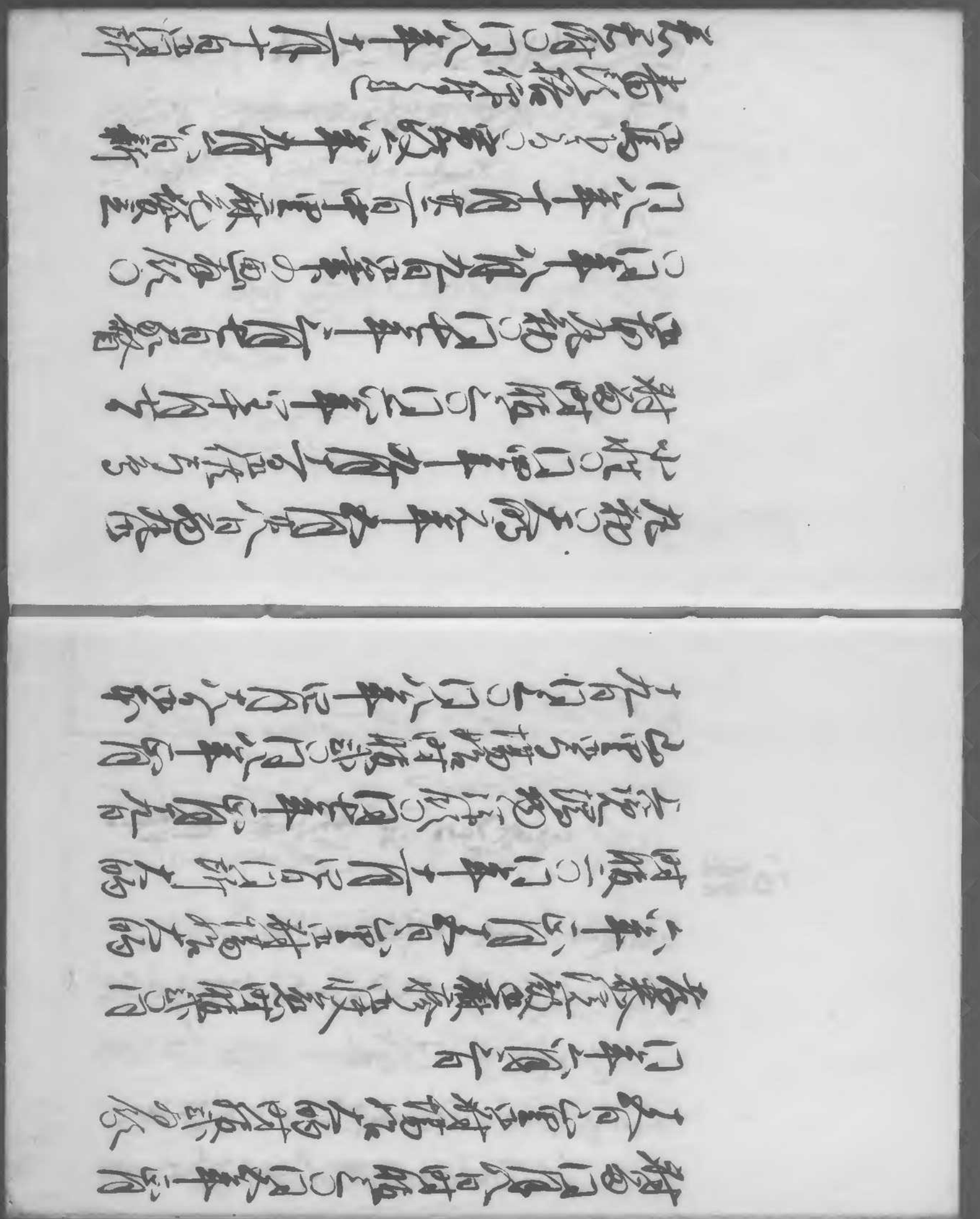
冒頭○同年閏十二月大白蟻冒頭
○同三年二月七日濃州揖斐郡川々
洪水堤防流失五百餘丈
帰雁渡今津浦○同年三月
九日大雨雷雨
終夜○去冬以来雨不降
東海○同月八日日蝕
御靈屋東方修理始二月
十日四時同年閏十二月
諸堂社修理始○同年十二月
帰雁渡今津浦○同三年
年十月十日大地震
閏十月十九日四時天狗
碧海渡今津浦○同年十七日
同三年二月
有章院殿
惟信院殿御靈屋御修理開
○同三年二月十日切再来

改加役の内年二百十七石増之事
御定高減高之内
以年二百石増之事仮御帳之内
不足分御帳之内年十二百
十二百両御定高減高
之内時仮之内年十二百
高百石減高之内六年十二百
五百石死亡之内年二百

二、頼

宝暦十三年十二百五十石
寄米之内減高之内和年二百両百俵
内米壱百俵之内八年十二百九日餅
米八年之内年二百
内年十二百五百石

初源家御書



国立公文書館
National Archives of Japan

宗性僧正任権少僧都九年二月廿七日
任前右兵衛督藤原経光朝臣
さしもの○門主十有五日出家遁
但支配

有徳院殿御代

宗賢　従五位下
源性　家殺　尤内上文字
九ノ内九枝笹
唐菱

宗教卿四男　正勝卿

文官　初名之助

寛保元年十二月廿七日蔵人
石山寺清○門主十六年二月廿日

永仁元年○同九年十月永仁改元
○同二年四月廿九日永仁を嘉元
に換ル○嘉元二年壬寅七月乙巳
嘉元二歳甲申正宗公年号を奉

正嘉

嘉元二年壬寅二百家督○宝治

六年十月六日永仁改元○同和元年
十月十日嘉元を改元ス○同日時
服之事○同七年六月廿六日時
服之事○正和元年壬申四月廿
四日嘉元を改元ス○同六年丁酉九月
十日時服之事○同七年戊戌三月廿
二日時服之事○同七年戊戌十月廿
日嘉元を改元ス○同七年戊戌三月廿

沿新院時代用職方精強夢時
脇武○同年十月五百佐渡奉行
○寛文六年十月二百藤貫民○同
七年二百人今西廉材場○
同九年百新田民四郎

公儀

寛文時山藤之正之二男

奥官 初源之丞

寛永七年二百長谷○大府
元年二百○同年十二百初之○日記
動脇○同年十二百初之○日記
年二百人百藤左衛門廉材場
動脇○寛文元年四百人百
同二年百人百藤貫○同
年二百佐渡奉行同千
人百阿脇三○同年十月九百
圓的元禄拾弐稲○同八年二

月廿二日於営場死去同月廿二日今
新殺日十一年六月廿五日進指香

歴代君御代

宝　高武向安経信

菅原姓　家紋　梅鉢
　　　　　　　風車

菅原宿祢全則十二代之河国見
渋楽之介十二代宝広同太郎
亨歳満留

東章　太郎大輔

[illegible]歳の時[illegible]
天文二年十二月東條に[illegible]
[illegible]今川家の[illegible]
春[illegible]
[illegible]章[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
東照[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
七拾九歳

重俱

今[illegible]

[illegible]
陣[illegible]
二月[illegible]

桂右○門十九年冬大坂陣從軍
○元和九年駿府ニ歸城の時
奉仕今宮にて死　二歳男子出生の處二門更八郎武
彼の一家の
其の家に有之

留近
長九郎
三百石浪人にて一家の養育を請
生涯終居

重玄
金之丞
寛文元年神田御殿江召出され　御勘定
廩米百石拝領○寛文二年御納戸
美濃國御代官○同十年御納戸出勤
定組頭○同十七年御納戸組頭○
浄運院殿御附西尾勤○病死小普請
○貞享二年七月朔日死　又六十六歳

東大寺長老永尊より尊

七郎尊

重福

文永七年十二月廿八日神宮殿口書
院番の方和之年十月御祈禱の
初度の日二年十月二百貫の物
○建長二年御番の方七年
十月廿日重福殿代の日上

年月廿六日豊後豊前両国の殿
○宝永七年十月御下向の事
御判○山城之年御祈禱人来
播磨長谷庵の湊参詣
国の方々初仕○日日年月廿六日
天長御祈願の石金の花○日文年
十二月廿八日加持頂○嘉保二年
御所御祈願之代所国地
敬十六条平寺之寺

[illegible]

同六年[illegible]

[illegible]

所領[illegible]

十九条

重能

中川国幡[illegible]

冨章　七条九条

文永八年八月初見。弘永六年

[illegible]

同七年六月十六日父[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○享保六年十月十一日郡代記。同
十八年八月十九日伊藤小兵衛
○元文五年閏七月廿七日死亡
六郎代別施度取立為物
小姓

蔭涼

大物

奥　佐田冨右衛門
享保十九年十一月十九日算長
○元文五年十二月廿三日病死。
享保元年二月廿六日大番。
享保三年十二月廿九日病死。
享延二年七月七日死亡
知行長山長泉寺に葬

[illegible]

[illegible]
享延二年○月廿日郡代。四和
元年八月廿六日死亡[illegible]

[illegible]

右帳

蜀黍　実　宝大物寄及公用
明和元年十一月九日　[illegible]

文昭院殿御代

宝　[illegible]武田信義

平姓　家紋　鄙撫草
熊谷次郎直實立行宗[illegible]
直一者備中國解[illegible]河宗[illegible]
堀名[illegible]苗氏宗[illegible]政直一[illegible]代
文孫宗玄朴直政嫡子
新助

直清

寛文十一年松平加賀守より
呼出加州より相勤られ元禄元
年壽月朱五日御儒者仰付　石出
御切米貳百俵扶持　（序者寒会と法印医師と之）
朔日初見○享保四年肖
八月高倉御家より出諫狩
相勤○同十年壽月肖西丸
奥御儒者仰付御切米

奥御醫師と上可仕出旨
相勤られ度隔番三番に相勤能
と仰付○享保十九年八月十
四日死萩原源左衛門抱地小石川
護國寺領分大塚新田村葬

訖誤（とり）　忠三郎

享保十九年十壽月七日家督小
普請○元文三年十月朱官

死三十六歳同村葬

孫太郎

直温（なおあつ）

元文四年十月廿七日家督

小普請○安永二年八月廿三

日西丸小十人組○同八年二月廿

四日

孝恭院殿葬御供同年四月

十六日頭組交御本丸勤○天明

元年十月廿九日死六十五歳小石

川阿波殿町光岳寺ニ葬

孫次郎

直矩（なおのり）

天明元年七月八日家督小

普請○同二年十月廿八日小十

人組○同六年四月書病死

小普請

室田　高武百俵

藤原姓　家紋　九ツ葵　九曜之星

先祖不詳

富田家系譜

政俊

大坂夏冬御陣之節御供仕候

御功業御褒賞○慶安

四年四月廿七日死

瑞恭寺に葬

○政信光祖播州東八郡を
宛別所家の物代官に別所
家織田信長に為先降先利
討罰ありて知行業祝者也
秀吉に降播及合戦の年也
城に播磨為陳加天正七年
二月討死信孝母切腹政信
と自殺紙者也立退に生紙

大坂御陣に高君文之助光信
と大坂御陣に高赤備の御使
仕御奉公仕御中伺に高之
若松赤撓合家の富田家富
と富田に縫殿の助更元這次
合戦御に高の得元後合戦
切に為計月の世若知見に美
赤面数今に指伝候

長子
正義　市橋八郎左衛門

他家相續ニ付不知

助太夫　初三助

政玄

台德院殿御代家督○寛永
年中出仕○寛文十一
年九月朔日出仕月番組入書
儀ニ付歳○天和二年九月廿三日
死七十一歳同年ニ葬

政長

令大夫　初虎之助　令寄

延寶九年二月廿七日表ニ書
○天和二年十二月十六日家督○
元禄六年十月二日御勘定
○寶永元年十月十六日許定所
勤役仕者○同六年二月廿四日
死六十七歳同年ニ葬

雅楽

初意政、陪吾阿石ヶ改

寶亀六年正月勅奏 吉貴二男

元孫十歳青雄養子○

寶亀永六年十月六日家督ト

當位○正德六年十月六日ニ

勅定○享保四年七月上旬

天命ヲ受ケ太三位元沙代官

不山城大和和泉河内攝

津讃岐國ニ於テ治飢鴻正鴻業

鴻女未鴻検見規方廻船方御

用御眼金五枚拝領○七月朔日

御朱印頂戴彼地ニ登城御用

相勤○同年十月六日帰渡

○享保六年五月異例金千領

山田八幡宮ニ於テ沙代不百姓御免

許吟味御用○同九月十二日江戸

同七年七月帰朝度々或被
○同十年八月伝加松平城之水野
隼人正上ヶ知郷村法度御用
同十月帰朝○同十二年二月
御勘定方被仰付○同九年
出羽国長谷川用○同
八月帰朝○同九年八月
国々巡検見御用
仰付信濃和泉河内播磨
被
○同年
元年二月帰朝○
清水金右衛門
尚人正徒衆之御
扶持方被
御出
可申
元和元年
月六日

御免○延享四年二月十八日
活動延期○寛延二年丙
午年

大獻院殿百回御忌於日光山御法
事御用御掛り○同三年二月
十四日御服○同年閏五月晦日
帰坂○同十六日慶安寺○
寶暦三年二月九日濃州郡
州川之出張○同六年七月

十六日右御用相勤年令之故
御願○同八年八月八日出勤之
所諸役書物通先帯刀年
御役御免小姓格仰付○
同九月令為実年令之故
家来伊藤御帝役之永領子
之後四拾俵年揚御下賜之旨
申渡候旨仰付○同
十月九日右御役御免○同十月

共ニ日ノ御所後中遠放ス
仰付ラレ候ヲ原ニ在ル処ニ同六年七月御書
遠島之指ス 後○同七年
二月三日 御免○明和二年
八月四日隠居剃髪所名ヲ改
○同八年八月六日死八十三歳
同寺ニ葬

政良

金左衛門 初 食助 人 仁三郎

延享二年正十月十日初見
○明和二年八月四日家督
小普請○同四年四月草鹿
上覧射ヲ手領持○同年
十月朔日草鹿
上覧射ヲ手領持○同七年
二月十七日西丸表番○
安永三年十二月十六日年寄
出情ニ付金壱枚賜○同五年

十月分限帳如故○同八年
二月　孝恭院殿薨御喪同月十六日
一統如常○同年八月五日
評定所書物御用○天明（年号不詳）
三年十二月六日神宮如故
○同六年十月六日御方改方
○同七年八月五日中山筋
検見之御用○同十月法帳

同六日山城丹波播磨摂津
河内国々郡○同十月
帰国○寛政二年舟番
漂来ル○同年十月十日来
二月　孝恭院殿御法事見世ヲ
相勤ル○同三年三月十日
蓮光院殿御葬御用
○同年十月六日尚八月

心願院殿市法華一宇開○同六年
十月廿二日法華細工○同八年
四月十九日市誕生市開○同八年
廿日
若君市誕生市開相動ハ永限被
○同六年三月廿三日裕宮殿
市開市ハ市被○同七年十月
十七日裕宮市婚被市開限十枚
○同七年十月廿[illegible]

敬之助殿市誕生市開限被
○同十年十月七日
淑姫君市誕生市開限十枚
骨打ハ動ハ別限被○
寛政八年八月七日姫宮誕生
市被市
紀姫君市誕生市開相動

政映

主税　初左吉　又助三郎

明和九年十月十九日於吹上
御庭園的
上覽射手領相○安永
二年二月廿二日初見○同六
年二月廿日於吹上御庭
園的
上覽射手領○同八年有
朝日之筋於
御庭先半的

上覽射手領相○天明三年
二月廿二日於吹上御庭園的
上覽射手領相○同八年
二月十八日於吹上御庭園相
上覽射手領相○寛政年
二月廿二日於吹上御庭園的
上覽射手領相○同十一
年十四月二日軍學者庭達
御聽七十人組

東照宮御代

高五千石宛

源朝臣

家康 年齢九拾九歳

従東鹿沢中長宗御国内井

東之長信地名を称号長宗

代御領国田尾信人為井御領

西豊橋子

正徳　　丸庫沢

父[illegible]武田勝頼[illegible]天正七年
九月十九日父[illegible]重臣別国[illegible]城ヲ
[illegible]戦死の時[illegible]城別[illegible]水の法
[illegible]父の家[illegible]武田家
滅亡[illegible]

[illegible]

庫沢[illegible]
十年[illegible]
[illegible]
[illegible]の時
[illegible]
[illegible]城[illegible]丸庫沢
[illegible]渭信の首[illegible]
の[illegible]
[illegible]

関次郎か首をとらんと寄来りしを
伊藤孫十郎とよしみ寄るをたゝむ
伊藤孫十郎書を添へ次郎首
御実検の處下盡謀りけ押切りけれハ
御帰陣の後彼刀ハ　御縁者帯
代々業物也　御座所に無類の名誉
又は拝領なされ　伴持たれしに　直清
甲萬のけハ辛くも上意ありし處

尚御申なれハ太の刀を國白依候
請させられ候ニ出帰に納りける
持候ハ○天正二年を公家の御事
尾張大野ハ戸田三郎左衛門と云者
之御出陣も兼ねて扱ねかひの九鬼
大隅守嘉隆は浜へ出張候ハ兵
船数艘ニて嘉隆ハ渡海し浜の浦
ニ上陸し大隅守と鉄砲を放し一發
小山隠退候を見候所ニ隠れ

和泉国井順孝の弱布施左京と
高木〻〻と中家人と辛〻琴弘枕
及一揆の宮寺銭をこの所左京亮
殖よ之間浦と二郎左衛門尉
高橋と家尉 明利 [illegible]
○天正十八年小田原の役
東照文殿清水より関市九郎
左衛門尉高橋と伊達小田原の役

取り之家清濃守殿五郎橋上
庫沢衛橋上押出 [illegible] 尉と共
[illegible] 尉 [illegible] 蔵の上意と蒙る
○同年寒中東海道入国のとき お供上
[illegible] 尉 [illegible] 弁天宮
同行之清同行右京亮殿
細川忠興 [illegible] 殿
作長船 [illegible] 殿

和紀筒井順慶等の諸将布施左京と
高取にて寄手衆と合戦し勝負紀
後へ押出し宮鉄を二つの時左京亮
嫡子三河守浦と三嶋寺にて三郎
太郎殿と家臣し勝利を得ば
○天正十八年小田原の役に
東照公御発向ありて清水より国府九四郎し
更に蒲原より御上りて長束よりり正
保と伊奈忠次に命し同国の里子とい

而して山中に渡舟を設けて橋を造る
康政御橋を押出し出船の通路を共に
警固し橋上の御蔵の上意を蒙る
○同年家康公入国のとき御供し
家臣と武田の旧臣并家臣等
同様に橋を修し渡舟等を
但し命せられ同所の船人を召し
浮舟船頭を御用として命令せ

[illegible]
て大坂表へ入り兵庫の内
兵庫沖の解船へ市渡海より渡海を
[illegible]
[illegible]の上方より渡
[illegible]
[illegible]海の[illegible]市渡
陣の他石渡屋より國市丸の船を
[illegible]し大坂[illegible]市船船番の
[illegible]の沖[illegible]

○[illegible]年[illegible]関の京の庫の[illegible]
兵庫[illegible]より國市丸の船を[illegible]
金渡[illegible]の[illegible]渡[illegible]船[illegible]
[illegible]風[illegible]
[illegible]
うち関の京の庫利の[illegible]船を
[illegible]
しに
兵庫[illegible]の[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

一大坂五月陣ニは右様子の海道
よ御備ニ被仰付頭ハ其形ニ居候と
一同人
右佐渡殿ハ自害と也寛永元年
三月廿六日死 年七十九歳相果候ニ付
月桂寺ニ葬

忠勝

将監

左近将監

慶長五年上杉景勝御征伐ニて
右佐渡殿御出馬の砌船手の者
其江戸御用ニ付候ニて忠勝ハ
佐竹殿より奇特子 思召候ニ付
丘道ニ通野御宗家ニ佐竹
也ハ石田治部少輔謀反の後より

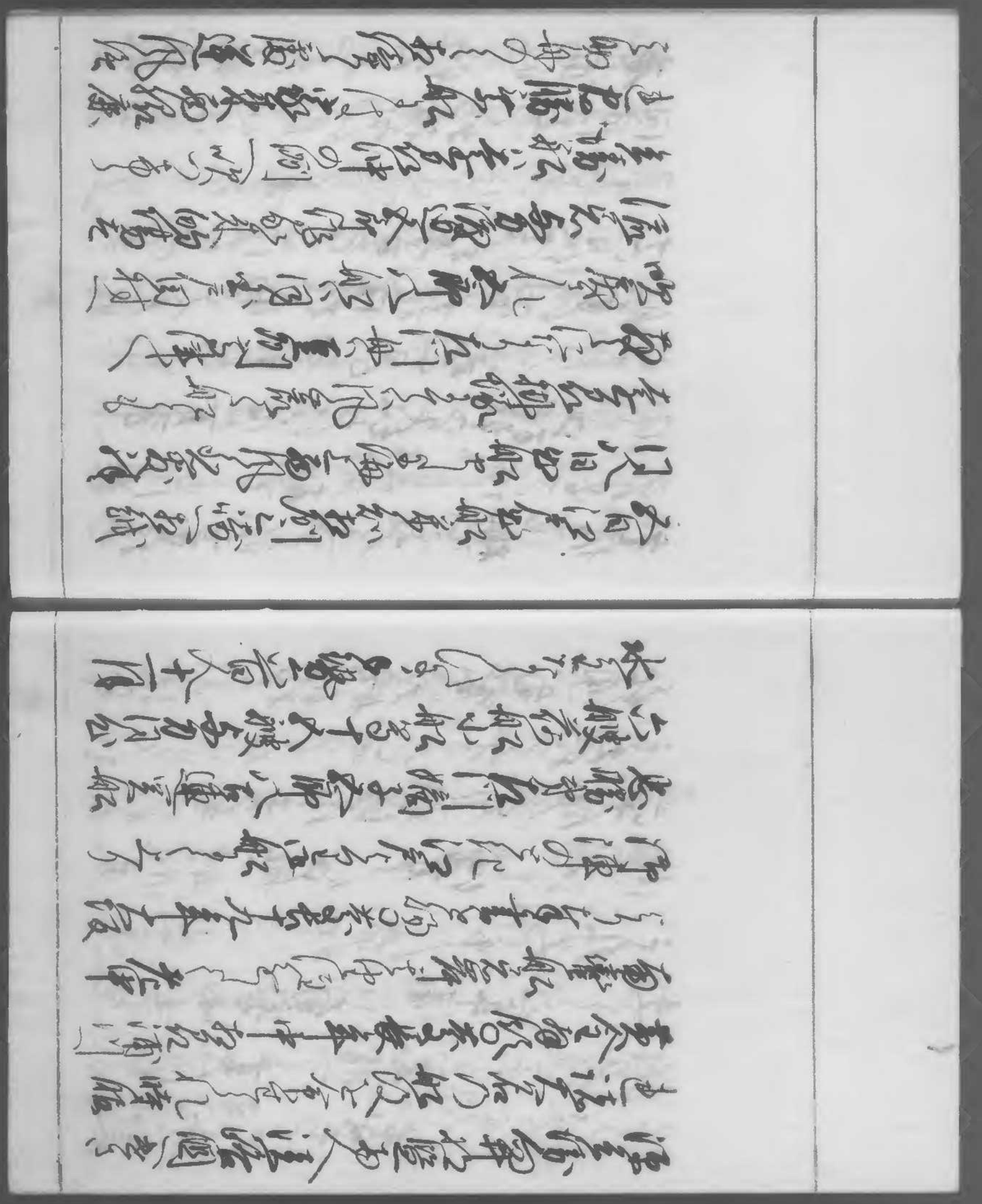
[illegible]

慶長六年

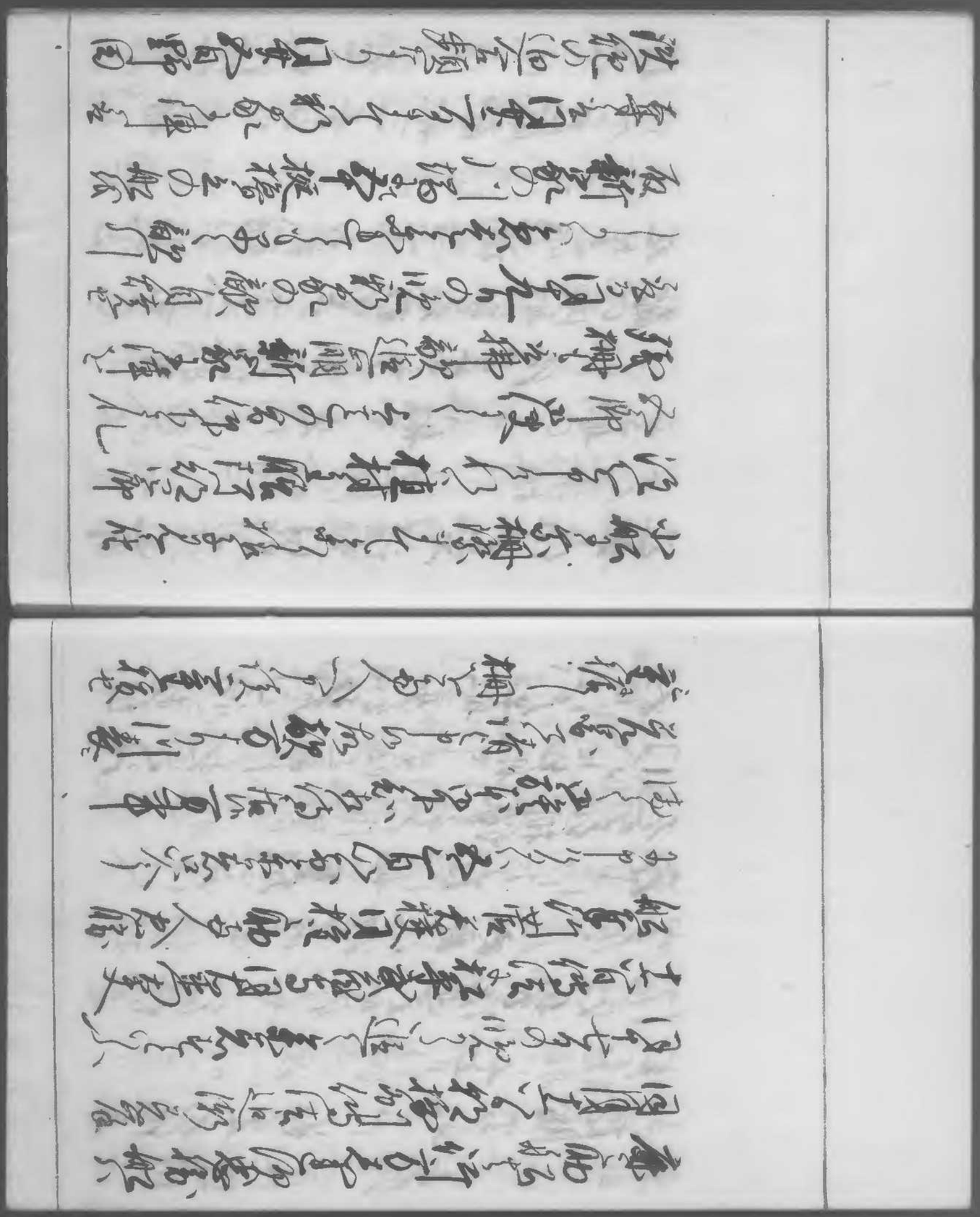
[illegible]

[illegible]

[illegible]



国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

福嶋の間ニ陣取居夜洩鉋迫合
ける中ニ大勝敵船ハ一番ニ乗して敵之
人討を残敵川ハ一飛入て遊ける所兵
九日未明福嶋より戦揚ニ挨之
敵の関船家臣中村生方ニ乗て一番ニ乗
して流ニ乗込ける大坂取来り
家船のつし船ニ乗込川ニ飛入士
二人首取ル又大勝捨得一人ハ家来
二年佐大夫ニ討ニ内所而て二年

旗挺之の関船家臣敵二人生取福嶋
を追返し其所ニ陣取而旗本へ申上之
中ニハ小船の中ニ奉書と注も
勝ち候事ゆかりし大勝家来人二年
佐大夫太郎左衛門請ニ付服二注ニ記
ありて候○慶長二十年二月加秋
百石ニ出る年の軍功 御感ニ
従く之衆を当ニ同年夏大坂
御陣ニつき忠勝ニ付ておき自ら

所八倉青左衛門組同心とを遣
関船七艘兵船ともに合して十七艘与
力同心に至る迄合て弐百余人侗東江
戸出船冨月乃梅枯別尼ヶ崎ニ至
岸けるに大坂表の船と押合
西宮よ船七艘を以て来り会し伝を
しく千里の海岸をお渡つ
冨月廿九日大坂より兵糧舎余人と
引具しみつけ城の町家を放火

さるうしけの公達ハ船よりあかりて上
陸しけ合せしに城の濱より淵の
かくるもあるてに捕へけれは退自
味方ゟも鉄炮を打掛しけれは敵方に
足軽出して鉄炮の迫合せしに右膳
方の勢の中より鉄炮の働殊に勝れて
新兵衛ハ敵を討取て此戦の功
船より鉄炮破損させしてこれを城の
濱より引付ける小船に乗て本陣に退きを

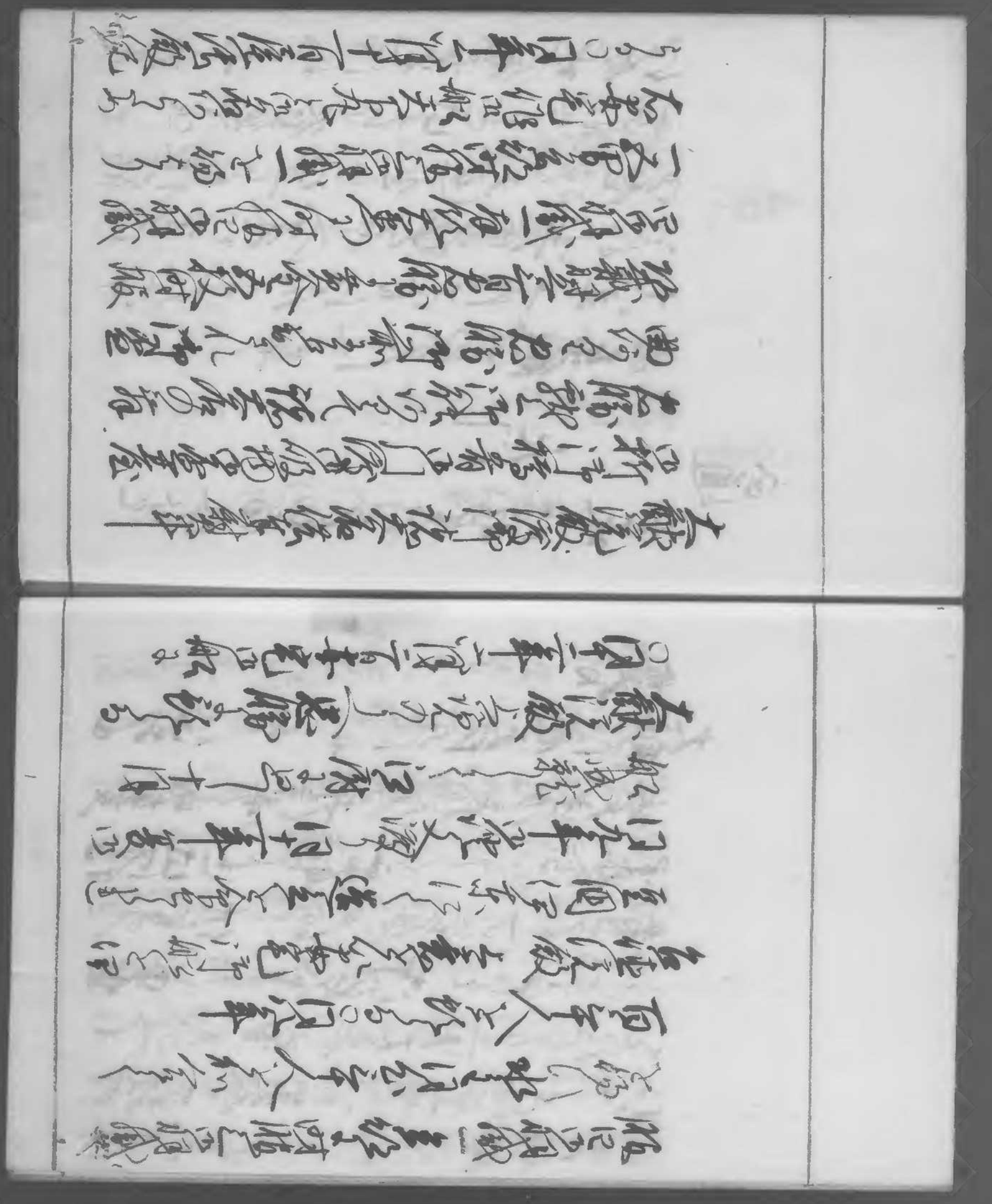
しくはなき由なれども、右衛門尉の
持を出して御辞退申されしに新
家として辞退致し進物を贈り
し首を取り奉行にて青屋二十
捕まへ申しけるに青葉と銭括
人牛搦捕と青屋と言ひ人は御取役
一の名は人のかくして本村甲斐守
よりはし罰せし入用のもの御取
陣へ参りしに華印山へ渡りも

ありけるに彼処にて右衛門尉の所持
なりし日織御覧相なり
候て船を脱ぎて入り込み
急に参り首を渡した
遂に出家して落城の後に落
人になり又人へ申し今
少く備後は番船と落人の
男女と搦めて注進し奉中連
罪の者と仰せ元和三年

[illegible]

[illegible]

[illegible]



国立公文書館
National Archives of Japan

但敏水戸敏安宅市船より上之方
京船七ツ半山手より登越之
[illegible]
[illegible]
十九年十月十日江府にて死亡
[illegible]

通

[illegible]水戸船京行中動病死[illegible]

[illegible]

源太郎　池仁府

[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

水戸敏船京行病者中に[illegible]
[illegible]死

勝正

弾右馬

[illegible]

家[illegible]死

正俊

[illegible]

[illegible]

[illegible]九年十二月大坂陣の時
父忠勝[illegible]
[illegible]
[illegible]
父忠勝の勲[illegible]
[illegible]九年冬陣の時[illegible]
[illegible]二月の初旬冬[illegible]
[illegible]
城内[illegible]

[illegible]

大蔵法師（[illegible]）[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]十五年[illegible]落の[illegible]
[illegible]船制[illegible]行と初
[illegible]十六貫二百
大[illegible]船[illegible]の時[illegible]
[illegible]時[illegible]
年父[illegible]の[illegible]
[illegible]
父[illegible]
[illegible]船[illegible]

[illegible]十九年西海
[illegible]
[illegible]
[illegible]帆七[illegible]
[illegible]十七日[illegible]
[illegible]

[illegible]

父[illegible]

長保　大學

[illegible]

[illegible]遠塞の後相模守源[illegible]遣

寛弘二年十月日死

寛弘　大納

[illegible]

寛方　將監　初名邦憲

寛永四年七月[illegible]

[illegible]

寛仁元年六月[illegible]

[illegible]

大納言藤原[illegible]

[illegible]

[illegible]

二日

[illegible]

[illegible]時[illegible]
[illegible]年[illegible]
[illegible]年[illegible]
[illegible]
[illegible]

将軍

初代征夷大将軍

家康

慶長二年十七歳にて
初めて宮中に参内
元和二年六月十四日薨
江戸（駿府の時）
天保五年
正月十六日
二条城にて薨
十九日
小石川の
邸にて
薨
享年
七十二
廟号
台徳院
寛永二年十二月廿日
寛永二年
父死
享年二百
廿日
御年
父の
後
御年
組の
父時の
御年
二年十月
廿日
死
御年
陽岳寺
葬る

將監　初位織

元和十二年十月十八日父授位家督ヲ継ル　元和十六年十二月十八日父授位家督ヲ継ル

常寛度厳島ニ対馬宅船ヲ以渡海ス

是以前百人のうち減ぜらるる人十七人ハ元和元年ニ百姓ニ成ル

渡海ス　元和九年ハ朝鮮の時

慶長年中ハ朝鮮ニ渡海ス　元和元年ハ大坂ニ渡海ス　元和九年ハ朝鮮ニ渡海ス

是以前寛永年中ハ朝鮮ニ渡海ス　寛永十年ハ江戸ニ渡海ス　寛永年中ハ朝鮮ニ渡海ス

寛永十年ハ江戸ニ渡海ス　寛永十二年ハ参勤ニ渡海ス

慶安二年ハ日光ニ渡海ス　寛文十年ハ江戸ニ渡海ス　延享二年ハ日光ニ渡海ス

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

改使

将監　初　伊藤

享保八年十月廿六日家督小書

清○寛享元年十月十六日家督

○同年[illegible]国大[illegible]

○寛延元年九月病死小書[illegible]

暦二年十月廿五日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

改番

将監　初　伊藤[illegible]

宝暦七年六月廿日家督小書[illegible]

○同和元年十六月下河辺船出之
このかた伊豆より同八年春三月
春暮江戸沖へ船を出し江戸
沖船破と同年六月下旬より霖
雨三日続き大風雷雨船数多破
損す同年七月中旬より霖
雨半船破と十月二日より霖
雨三日続き船数多破損す
翌子船破と同年公年より南船数多
破損す

文政元年海船破損すること無
以前未知のこと定めし伊
豆より付て同年十月廿五日相州浦
賀へ同年二月十二日西府へ
船破の為と同年閏二月廿八日
江戸表へ海船破損多数出
年々父子海船破損の為
父代より同年六月下旬天地丸
浦賀沖へ江戸の記

清廉年也行着御之七月分百
内脇之五百石御蔵米

道

左門

寛永年間幡与廉直之事

寛政二年十二月廿九日之
年二百廿六日年八月廿
八日清五郎船ヒ乗り日年六

但二百五拾石清家船ヒ乗り
時脇二百石

国立公文書館
National Archives of Japan

大獻院殿御代

源氏

向井

高九百石

家筋 九ノ門ニ藤九 右七ノ桐

向井左近將監忠勝ノ男

左庫助 初八郎 八郎

改與

汐江宮内

寛永十一年初九月朔日

同八年十月廿日、父光成の門石
[illegible]
八幡宮領の[illegible]
[illegible]書院の[illegible]
西及び[illegible]
[illegible]
伊豫国の海辺巡行[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

前中納言高倉永範卿
○富士川ノ合戦ニ敗北シテ
源平九郎ノ合戦

重衡（トモヒラ）

三位ノ位

寛文七年十月廿五日小松殿ノ四
男ニ生レ給フ○元暦
元年二月廿六日信濃ノ国
七年十二月廿七日家督ノ日十二年

宗盛

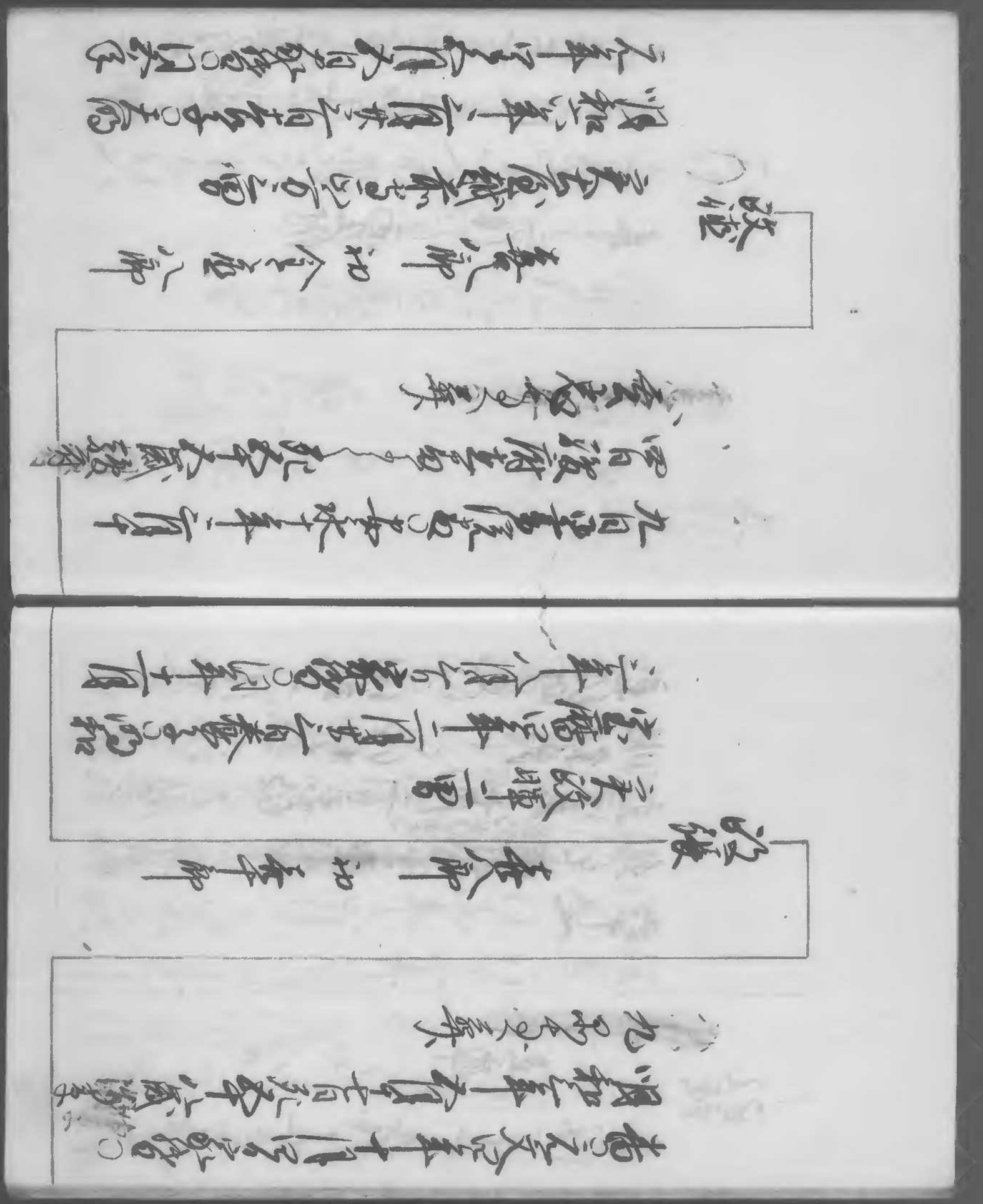
寛文七年十月廿五日小松殿ノ四
男ニ生レ給フ○寿永元年六月廿
九日七十歳ニ成給フ合戦

知盛

伊賀守　初養子　名庫

実ハ平野将監正方ノ次男
元暦元年十二月廿八日家督ノ日寿永
元年六月廿日左兵衛督ニ成
元年閏二月廿二日於長門壇浦

奉行員数之内大年寄
十二百四拾貫之内
四拾貫京都寺社奉行
四拾貫之内千二百石
俵宛之内千二百石
俵宛之内千二百石
俵宛



国立公文書館
National Archives of Japan

十二月廿二日西尾家ハ姓名ハ門六年
寛文
四年月廿五日西尾隼人佐ハ門七年
二月廿日ハ今ハ家ハ門八
年十二月十日西尾

大猷院殿御代

源姓　　高二百俵
向井　　家政　上ヶ藤九郎　九七、相模守
向井左近将監忠勝七男

正次　六男

寛永十一年初見ハ門十八年
十二月十日父の跡のうち二男

大業夏宗之以六年余有男拾
四人正方千石ヲ以夏宗ヲ
始ム宣信六四男八郎左衛門尉
ヲ信濃ノ国ニ遣ハシ八郎
六郎四郎ヲ召具シテ信濃ノ
国ニ入ル九年十二月ニ死ス法名
岳寺ト号ス

一正利　長吉郎

永徳元年戊午ノ宗性組結ス
十二年正月二日死ス号ス

一正里　第女

實日妙將　慶安二男
家光ノ小姓ニ成ル二年ニ有リ

一日死日寺に葬

正候　六左衛

寶日性中尼　某

養子○家督小書付○享保六年
二月十八日家督相續○元文四年四
月十六日江戸城ゟ門番仰付
旬年勤之組ゟ御暇ニ相成

正徳　江戸ゟ宗深元年九月廿一日組
番頭ゟ紀州へ行く小書付ゟ入
同ゟ享和二年ゟ教光ゟ家
暦天年九月六日没法名門中元年
享年二百死日寺ゟ葬

正南　長谷部　初　左近　武近

実日性持院政貞二男

養子○宮内省六年九月六日宮内省
小菅侍○同六年十九日死亡
番○同年二年十一月廿一日進物番○
明和六年九月廿二日進物番病
免○同六年十二月十九日病免○同
七年閏六月廿二日死亡歳同
年二歳

叡

六花典　初　舞子　或紀

文政年間以来行跡不詳

明和六年十月舞子○同
七年九月廿日宮小菅侍○再永
二年四月廿六日小姓組

東照宮御代

向山

蔭京姓　三百石

家筵角切角門梳櫛

太巳

富士山の禁奥国幸城代向山母

後号東宮早世奥国仕向山管地

二代

改密

二百石

天正十年
秀吉ニ攻シ大坂ニ城ヲ
河内守清延ノ花押ノ宛文二
年十二月十日死九十七歳市谷
宗恭院殿

改名　友忠

寛永八年十二月十日大坂ノ番ノ年月不知

家督ノ発ノ定宗元年
八月十六日死七拾二歳門寺葬

改人　平二郎

実長ノ次ノ伯父ノ養子
寛文六年六月初ノ出
九ノ門七年十二月初ノ大坂ノ番ノ門

十一年六月十日死

汝勝

七代和

実義紀左衛門久義二男

舞岩子 年月不詳 ○寛文元年十二月十

二日家督○同二年閏十二月廿二日大番

○天和二年十二月廿二日御目見○同二

年二月廿二日大番○宝永六年

十月二百大番組頭○享保六年

六月二百家督○宝永六年十七年九月廿日

死去歳九歳同年三月廿日葬

春

七代和

元禄七年八月廿八日初入○宝永

六年閏六月大番○享保八年

十二月十日死去歳十四歳同年三月廿日葬

改元

寛政春秋二十九歳　従位楽ニ

享保元年十二月嫡孫豊祖ノ門乃年
六月廿八日初見ノ門七年十二月初見
家督ノ元文元年十月七日従位ノ
寛永二年十二月廿九日没ス稽七歳
日寿ノ義ナリ

改元

七歳　初　立脚

寛政脚ニ男
元文元年十二月十六日ヨリ門年
十二月七日家督ノ門元年十二月廿
日大正番ノ天爾ノ年六月十三日死
免度今或教ノ門八年十二月十日
死七歳ニ年ニ門寿ノ義

改新

二千九百年　初七九帝

後注帝紀

宣化元年十二月大伴金村の事

七年十月九日大伴金村の事

二月宣化天皇崩ず

後注

○四年十月九日物部尾輿を以て

大連とす　物部尾輿の事

○永久年十月宣化天皇崩ず

日文皇子を以て皇太子とす

天皇の子十二月大伴大連の死

武烈紀に伝ふ

七月二日天皇崩ず　七年二月

物部尾輿の事

改雜

七九帝

寛政二年二月廿六日初入〇同八年
閏十九日ニ叙爵
〇寛政同年十八月海内諸府上京
互相之義仰付度〇同九年青
十月日一院諸府上京日廣
令教

東照宮御代

向山源太郎　高七拾俵人扶持
寛政紀義　概察

先祖詳なりと

九郎兵衛

直道

恭光院同年十月御供ニ長崎ニ
罷ル京ニ帰ル〇
文政五年閏十月大番

○二條家年九月廿日死弱也業
行藤卿

二條殿

寛永八年閏正月○門千八年表
次番○寛文八年閏七月○門千
二年十月廿九日死六十七歳門
号毒

治定

治定

寛文十二年十二月家督正員卿
配流○寛文二年十二月廿三日
兎公里流○元禄十年七月
廿二日九歳○門千二年同所門
流罪○寛永六年十月十五日死六
十歳門号毒

真人

文武天皇　初二年即

宝亀六年十二月廿六日宿禰の言
保元年十月廿六日天皇の詔
九年閏八月病気の元文元年十
月六日
刑部殿流罪の詔宝亀九年閏

同新中人の詔宝亀元年初定
の元保元年十二月廿日新中人
組織の定言元年十月十日新
中人の宣定元年十月十日
死中六年六月廿三薨

真改

文武天皇

真改宝亀六年八月即位の詔

寛永三年八月七日若子の宮之
年十二月廿七日御誕生の門出年
二月廿日初めて天満宮に参詣
十日没法の宮殿又年十二月二日
死去御年三歳

東都

二月廿日　初参詣

天保三年十二月十日御誕生の宮殿
嘉永元年九月廿日初めて門出年
月廿二日御袴着の門出
十年十二月廿九日初めて参内
同年十月七日病死

大歌所御代

向山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元和元年十二月江戸幕府ヲ
相続シ大政奉還ノ行福岡藩
法規組織完文元年八月病日死
弱冠学校院ノ葬

清成　法名寿

初一年

寛文元年十二月　日　家督ノ遺宝

二年十二月　日　沈四郎厳流組設ノ
門人年月　日　細川
浄徳院殿附ノ自筆二年十月　日　細川若
少年番ノ元禄十二年六月晦日死
三番ノ門人四年二月十二日長浦深
尊ノ宝永七年二月　日　細川ノ廟所ノ
西徳二年二月二日死弱冠学校院
少年

長頼　平氏命

実秋卿仁徳末男

寛元年八月廿四日蒙勅勘二月廿二日

年号有廿六日家督ノ門参年六月

十九日紀伊守ニ成ル元文二年八月

廿九日死門参ル年ノ舞

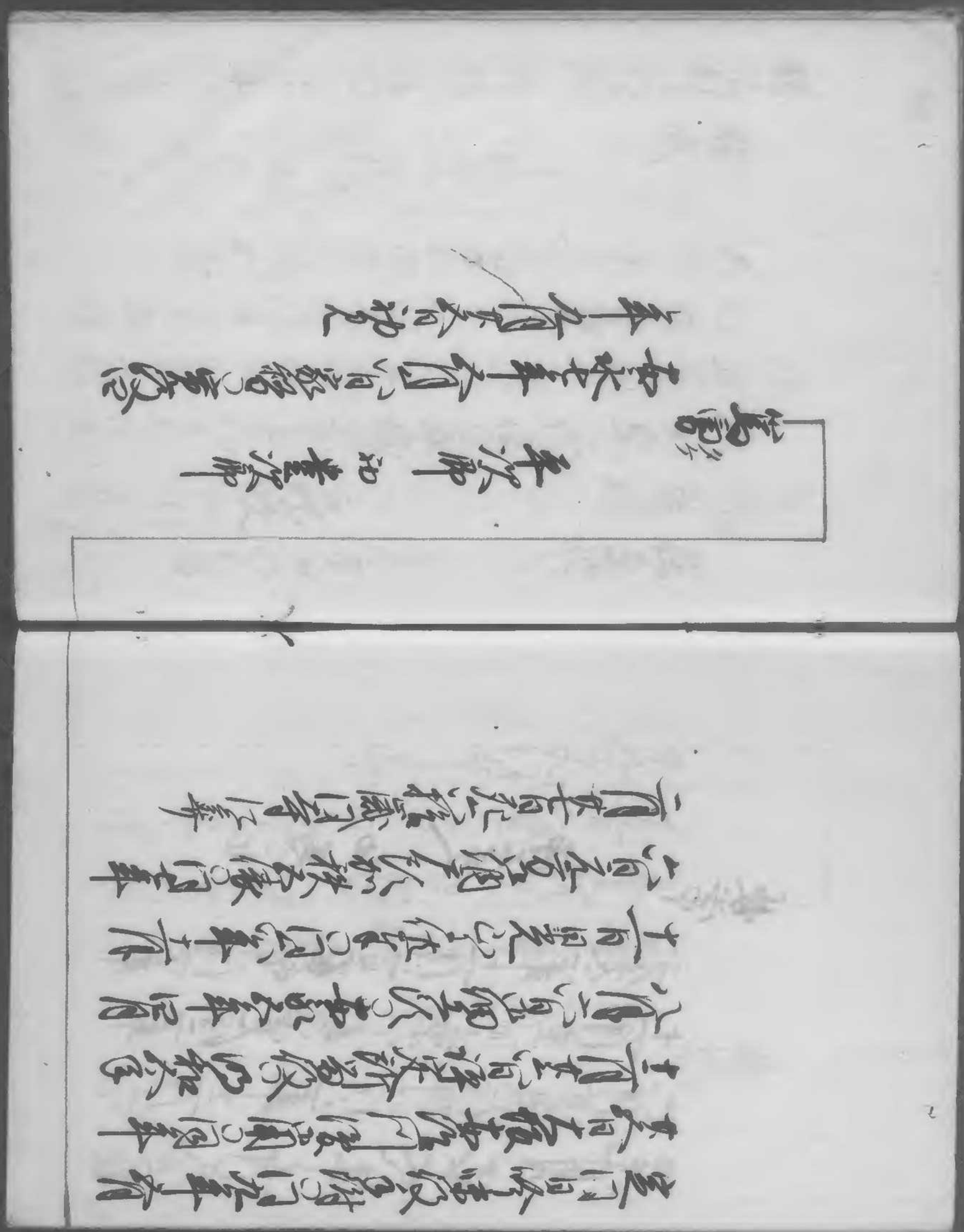
長常　源氏　初馬ニ助

元文二年十月廿日家督ノ門ニ年

十月廿六日蒙勅勘二年

八月廿日流押ノ門二年十二月十六日

流罪ノ宣永仁年十月十八日勘



国立公文書館
National Archives of Japan

在原姓

年禮

人皇第一代淳和年城天皇十代孫源四
郎年人西國言讃岐國年礼居住氏名年礼
沒國言拾九代年礼但馬守第年言年禮
右郡夏言七代年礼御家ノ勝利男

勝成　年禮愛宗代　御右筆

權現様ヘ六第ヘ附始ル　右奉仕其後

三郎様ニ成る　御相動ひ申候

二条様御後ニ成る為[illegible]　牧野右馬亮康

成遠卿御後ニ行居○天正十二申年小牧

御陣ニ表勝成十六歳ニ付私ニ長久ニ

役出ス右ハ齊藤

権現様御幕ニ内ニ成る　右ハ御威光　東

月大[illegible]年　御入国ニ表ハ

右徳院様ニ成る　御日十九年六月ニ初行

三百石拝領ス○慶長六子年関ヶ原ハ出

陣ニ表

右徳院様ニ勝年其後ハ使者所ニ表後御

加恩ハ百石ニ成る　右拝領

大姉院様御代迄御使番相勤寛永十二子年

十月廿九日死ス　六十七歳　法名心法宣英

勝政　実義次郎ノ一男

年礼ハ万太郎

右徳院様ニ被為行ル　東ハ小姓組ニ成る

大坂西御陣ニ供奉致シ後ニ小納戸布衣
大猷院様御代御使番ニ○寛永十七年四月廿
六日ニ仕ヘ者ニ被仰付候ニ付不会ニ成ル　思召ニ付
没落其後又御右筆病死致絶ニ成ル
浪人ニ而在馬原城攻ニ被仰付ル寛永
廿四年正月廿九日ニ死ス其後彼地ニ
信濃守領地ニ成ル故討捨城ニ成ル
二月廿九日ニ死ス九歳ニ成ル
浄瑠璃ニ葬

政友代　清左衛門

年礼受ル

寛文元年七月十七日
権現様御年回御忌ニ付出仕ス
廿一日ニ小性組○同十一年十月十四日ニ死ス
七歳ニ成ル
法性寺ニ葬

実年礼方之帥勝政家

勝久　年礼遣ハる　御太刀　又助

寛文十一亥年十二月十二日書ス安堵ノ印

十二子年六月廿六日ハ小性組ノ元禄又申年

三月廿三日ハ腰物奉行布衣ノ印六丙年

十二月十八日ハ加恩我旨倍ノ印八亥年二月

廿一日ハ廊下番ハ加増二百倍ノ印十二月十日

従五位ノ印九子年四月十一日ハ先ノ如ノ印

土亥年七月六日ハ養子ハ成ハ百石ノ

宝永又子年ノ印正月十六日病死ノ印月廿

二日死　享年三歳ノ印寺

実者秋夜左衛門尉　従五位下　勝男

勝治　播磨守　年礼　御太刀　万次郎

天和二戌年八月十六日書ス元禄六丑年

十二月九日小性組ノ宝永子年四月十二日

安堵ノ正徳三巳年十二月廿九日屋敷改ノ

享保四癸亥年十一月廿日形ノ布衣ノ変
二巳年八月廿三日死 七十五歳ニ而

大炊御門家

寛永年礼九左衛門 正賀二男

年礼清左衛門 又助

満能 葛貞

正徳元卯年八月十八日養子ノ日二辰年
二月十日初見ノ享保十四酉年八月十四日
家督相続ノ元文二巳年十二月二日家督ノ日
年因十二月西丸勤ノ日ハ甲年六月廿五日

加級ハ義采引給八百俵ノ寛保二戌年
十月十四日ノ日組ニ成ノ日十二月廿日布衣ノ宝暦
八癸年八月十四日ハ老ノ病ハ和二戌年十月
廿六日死 七十三歳ニ而寺

勝孟

年禮弼左衛門 永 五郎 佐々

伊左衛門

寛保三癸年九月十二日初見ノ寛延二巳年
十二月廿六日西丸ハ玄院番ノ同十辰年

四月祇日

大帝所御○同十一年八月二日西刻○同十二
年年十二月十五日

若君御○四和三成年十二月廿七日薨○
[illegible]年九月十二日[illegible]書院番組[illegible]同十二月
廿八日[illegible]○天[illegible]元年同[illegible]月十八日

豊子代御○同四辰年正月十八日[illegible]卒[illegible]

同寺

勝昌　　年禮[illegible]　　[illegible]助

安永六酉年十二月廿日初見○天[illegible]年
三月六日[illegible]○同[illegible]年[illegible]月二日[illegible]番
西丸勤○同八申年十二月廿一日病死○

龍山御[illegible]俊[illegible]四[illegible]刑部少輔娘[illegible]
龍山御[illegible]妹之祖[illegible]成妻[illegible]
[illegible]憲院御[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan